

## 1年目の勤務を終えて



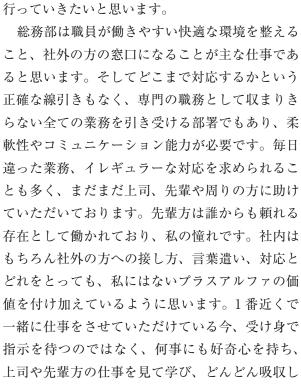
世界保健機関 (WHO) は新型コロナウイルスがパンデミックに該当すると宣言して2年、社会情勢も自分を取り巻く環境も日々目まぐるしく変化した激動の年となりました。

私の就職活動はそんなコロナ禍の真っ最中で、会社説明会・選考会は全てが延期や中止となり、開催されても全てオンラインでした。オンライン上ではどうしても社員や企業の雰囲気が分かりづらいため、苦悩した記憶しかありません。その中でSTC(砂防・地すべり技術センター)では対面の面接があり、実際に職場に訪問して職員の方と話すことで、これから働くイメージができたのでここで働きたいと強く感じました。

入社にあたり、管理部門の採用が私1人だったこと、そして仕事は初めてのことばかりで不安でいっぱいでした。電話を取るにも、備品の発注にも、失敗したらどうしようと考える毎日で余裕がなく、1日を乗り切るのがやっとの状況でした。しかし、総務部の職員の方をはじめ、社内のさまざまな方に優しく丁寧に指導していただき、少しずつではありますが仕事内容を覚え、流れを把握し、日々の業務を覚えることができました。

入社から1年が経ち、仕事をする上で大切だと感じたことが2つあります。1つ目はメモを取ること、2つ目はいわゆる「報連相」です。日々の業務の中で電話を取ることが多く、さまざまな方からの電話に慌ててしまうことが何度もありました。そのため電話越しにしっかりお名前とご用件を伺い、即座にメモを取ることを徹底するようにしています。また指示を受けた作業に対して、まずはメモを取り、一度自分の中で整理、理解し、

不明点は質問することでミスを 減らすことができました。そし て仕事をスムーズに進めるため にはこまめに「報連相」を行い、 認識のズレをなくすくことが重 要だと感じます。業務を進める 中で、疑問に思うことなどは一 人で不安を抱えたまま仕事をす るのではなく、周りの人に報告、 連絡、相談することでより効率 良く、正確に進められることを 学びました。まだまだ経験も浅 く未熟でミスや失敗をしてしま うこともありますが、上記2つ のことをこれからも徹底して



オフィスのIT化、人工知能(AI)やロボット

ていきたいと思います。



の技術革新により、日本の約半分の仕事が代替さ れる可能性が高いと言われています。事務職もそ れらに代替されてしまうのではないかと不安もあ りました。しかし、実際に働く中で、単純な事務 作業だけではなく人にしかできない仕事も多くあ ります。その中でも「私にしかできない」「私な らではのこと」をこれから模索していきたいと思 います。

新型コロナウイルスの拡大により突如として私 たちの生活が一変したように、今後どのような世 界になるのかは誰にも分かりません。不安もあり ますがその一方で楽しみもあります。なぜなら入 社して1年で多くのことを経験し学び、時には臨 機応変な対応を求められ悩むこともありましたが 23年間の人生で1番成長を感じられたからです。

一社会人としてまだまだ未熟で至らない点ばか りかと思いますが、組織のため、一緒に働く全て の方々のための仕事ができるよう日々成長してい きたいと思います。